

図書館だよ!

河内中学校
R3.10.

木々の葉が色づき始め、秋の気配が濃くなってきました。
 10月27日(水)から11月9日(火)の14日間は第75回 全国読書週間です。
 全国の書店や公立図書館では、様々な催しが行われます。
 今年の標語は「最後の頁を閉じた 違う私がいた」です。
 本を読むことで、先人の知恵に学び、世界中の人々と心をつなげましょう。



◇◇◇2021年度上半期『河内中 貸し出しベスト10』◇◇◇

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1位 君の臍臓を食べたい (住野 よる著) | 6位 昔話法廷 season3 (NHK Eテレ制作編) |
| 2位 デリカシー体操 (ヨシタケ シンスケ著) | 7位 ときめく猫図鑑 (今泉 忠明監修) |
| 3位 イヌがおしえるイヌの本音 (井原 亮監修) | 8位 初版グリム童話集 (グリム著) |
| 4位 奇譚ルーム (はやみね かおる著) | 9位 失敗図鑑 (大野 正人著) |
| 5位 風に恋う (額賀 濤著) | 10位 大家さんと僕 (矢部 太朗著) |
| | 10位 そして、バトンは渡された (瀬尾 まいこ) |



これから、新しい本が続々と入ってきます。
 「読書の秋」お気に入りの一冊を見つけましょう!



・・・たとえば、みなさんは小説や詩を読んでいて、自分がぼんやりと考えていたことを、とても明快に代弁してくれるような一節に出会ったことはありませんか? 自分と同じような考えを持った人が、もう一人この世の中にいたんだ、と感じることはありませんか? あまりにも登場人物が自分にそっくりなので、読んでいてなんともいえない親しみや、気恥ずかしさを覚えたことはありませんか?

今から六十年も前になくなった作家の太宰治が、今でも熱烈な読者を獲得しているのは、太宰の小説には読者を「オレと同じ人間がここにいる」と感じさせる独特の力があるからなんです。

中原中也や石川啄木のような詩人たち、あるいはヘルマン・ヘッセの「車輪の下」やアンドレ・ジイドの「狭き門」のような小説が、いつの時代になっても、若い人たちに人気があるのは、これらの詩や小説には思春期の人間に強い共感呼び起こし、「自分の言いたかったことを、この人たちが書いてくれている」という、発見の喜びみたいなものがあるからなんです。そう感じたとき、読者は作者とつながることができるんです。

若いときは、一冊の本を読み終わっただけで、自分を取り巻く世界がすっかり違って見えてしまうようなことが珍しくないのです。

きんたいち ひでほ 金田一 秀徳著 ~15歳の日本語上達法~(81キ) より抜粋



こんな本を読んでみよう！

庭

小手鞠 るい 著 小学館 刊



分類：913 コ

好きなことより、きれいなことの方が多くなってしまった中学3年生の真奈。友だちがきれい、学校がきれい、SNSで人とつながるのが、きれい。好きなのは自分の机の上のサボテンとお父さんだけ……。敏感で感受性の強い中3女子が選んだ道は、父方の故郷であるハワイへ行くことでした。明るい日差しと花々が咲き乱れる「庭」での毎日がトゲトゲの心を癒していきます。

HAPPYになりたい人におすすめの一冊です。

この世界からサイがいなくなってしまう

味田 村太郎 著 学研 刊



分類：48 ミ

絶滅の危機に瀕する南アフリカのサイ。その角が薬としてアジア各国で取引されているという現実があります。密猟者からサイを守るために活動する野生動物の研究者たちの姿を記録したノンフィクション。著者はNHKヨハネスブルグ支局長です。ジャーナリストの目を見た密猟者と監察官との攻防は迫力があり、読みごたえも十分です。本作は昨年「第8回子どものための感動ノンフィクション大賞」最優秀賞(日本児童文学者協会主催)を受賞しています。

学校では教えてくれないゆかいな漢字の話

今野 真二 著 河出書房新社



分類：81 コ

「身近にある漢字。たくさんある漢字。一つ一つの漢字に目をむけて、一つ一つの漢字と対話してみると、新しい発見がきっとあると思います。漢字と仲良くなってください。」(本書より引用) 構成を紹介すると、1. この漢字、読めますか？ 2. 漢字はこんなふうにできている 3. 漢和辞典で遊んじゃえ 4. 漢字はこんなにもゆかいだ！ 漢字に興味のある人、ぜひ一度手に取ってみましょう。

(「14歳の世渡り術」シリーズ)

武器ではなく命の水をおくりたい 中村医師の生き方

宮田 律著 平凡社 刊

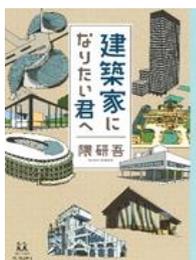


分類：913 ヨ

アフガニスタンの国内の情勢が毎日のようにニュースで流れてきます。本書は、日本人医師 中村哲氏が、アフガニスタンの人々のために活動した生涯の記録です。戦乱の続くアフガニスタンで、人々の暮らしを救済するために奔走した中村医師は、現地では神様のような存在であったと書かれています。その活動の源には平和を希求する心がありました。見返りを求めず、自らの信念に従い生きた姿は、日本のみならず世界中の人々の記憶に刻まれています。「人々を救うのは、武器ではなく水」の言葉の重みが今、響きます。

建築家になりたい君へ

隈 研吾 著 河出書房新社 刊



分類：36 ク

「10歳で、建築家をめざした僕は、ずっと長距離走者のように走り続けた。人間とモノに興味を持って、しんぼう強く遊びつづけよう。」(本書より引用)

構成を紹介すると、1. 動物好きから建築好きへ 2. 人間を知らないと、建築は作れない 3. 夢のアフリカ旅行が教えてくれたこと 4. アメリカ留学で気付いた日本の魅力 5. はじめての建築 6. 予算ゼロの建築 7. 日本の田舎から世界の田舎へ 8. ハコの先の建築を探して

建築家 隈健吾(くま けんご)氏から、10代の皆さんへのメッセージ集です。

(「14歳の世渡り術」シリーズ)